

飛鳥資料館のみどころ（11）

展示品解説 その3

「高松塚古墳出土品」

1972年に発掘調査がおこなわれた高松塚古墳は、極彩色で描かれた壁画を持つ古墳として現在も注目され続けていますが、飛鳥資料館ではその高松塚古墳の出土品（重要文化財）を展示しています。

石室内部は、盗掘によって荒らされていましたが、壁画とともに、黒漆塗りの木棺を飾った金具や釘、唐様太刀の飾金具、琥珀製丸玉、ガラス製の粟玉・丸玉および海獣葡萄鏡などが残されていました。

木棺金具は、表面の鍍金が部分的に残り、裏面に漆で接着した痕跡が残るものもあります。唐様太刀の飾金具は銀製で、太刀の束の先端と鞘の先端を飾るものや、帯を取り付けるための山形金具などがあります。琥珀製やガラス製の玉では、ガラス製粟玉が最も多く残されていました。

こうした出土品の中で、高松塚古墳の年代を定める有力な情報を提供したのが、海獣葡萄鏡です。中国の西安に営まれた698年没の独孤思貞の墓か

ら同型のものが出土していることから、この鏡は遣唐使を通じて中国から持ち込まれたものと考えられています。葡萄唐草文を巡らせた中に想像上の動物達が飛び跳ねるように表現されたその姿には、西アジアとの交流の歴史も感じさせます。

これらの出土品は、常設展示室の最も奥に位置し、展示前面には多彩な光によって星宿図を描いた天井をしつらえています。闇の中から光輝くような展示室の雰囲気を味わいつつ、高松塚古墳の出土品をじっくりとご鑑賞下さい。

（飛鳥資料館 清永 洋平）



高松塚古墳出土品の展示

記録

埋蔵文化財センター研修

出土漆製品の保存科学課程特別研修

平成17年9月28日～9月30日 14名

遺跡環境調査課程専門研修

平成17年10月13日～10月28日 7名

遺跡地図情報課程特別研修

平成17年11月8日～11月11日 19名

写真基礎課程専門研修

平成17年11月24日～12月7日 10名

発掘調査現地説明会・見学会

平城第390次（旧大乗院庭園）

平成17年9月17日（土） 600名

飛鳥藤原第141次（甘樺丘東麓）

平成17年11月16日（水） 4775名

飛鳥資料館秋期特別展

展示「東アジアの古代苑池」

平成17年10月22日（土）～12月11日（日）

特別講演会

平成17年10月23日（日） 86名

陳 良偉 中国社会科学院考古研究所

今井晃樹 平城宮跡発掘調査部研究員

発掘速報展

奈良の都を掘る - 平城2005 -

平成17年10月25日（火）～11月30日（水）

公開講演会

平成17年10月1日（土） 370名

田辺征夫 所長

市 大樹 飛鳥藤原宮跡発掘調査部研究員

神野 恵 飛鳥藤原宮跡発掘調査部研究員

国際講演会

平成17年11月19日（土） 140名

安 家瑠 中国社会科学院考古研究所

龔 国強 中国社会科学院考古研究所

石 自社 中国社会科学院考古研究所

講演会（NPO平城宮跡サポートネットワークと共催）

平成17年10月16日（日） 280名

東野治之 奈良大学教授

お知らせ

飛鳥資料館冬期企画展

「漆紙文書の世界（仮）」

平成18年2月3日～3月5日（予定）

編集「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2005年12月